

# 幼児教育における防災・減災活動－台湾の経験－

台北教育大学 幼児・家庭教育学科 翁麗芳  
交通大学 土木工程学科 單信瑜

## Disaster prevention and reduction education for preschool children – The Taiwan's experience

WONG Leefong, National Taipei University of Education  
SHAN Hsin-yu, National Chiao Tung University

**【Abstract】**  
Taiwan is frequently hit by earthquakes and typhoons due to its geographical and geological characteristics. The risk of flooding, landslides, and debris flows has become higher as a result of the extreme weather events which might be attributed to climate change. As a result, the perceived importance of disaster prevention and reduction education has been growing significantly. Furthermore, the challenge of low birth rate of Taiwan is becoming even more serious. On one hand, the Ministry of Education (MOE) emphasizes on the quality of education and care of preschool children; but on the other hand, it has also been spending increasing effort on the promotion of disaster risk reduction education in order to provide a safe and unworried environment for children. In 2010, the MOE published the play books and multimedia kit for disaster risk reduction for preschool children, and 22 kindergartens have participated in the experimental program on disaster prevention and reduction capacity building administered by the MOE during 2014-2017. There are also several local governments started their own supporting program on enhancing disaster risk prevention and reduction of kindergartens and held contests for development of teaching plans and education materials on disaster prevention and reduction education for kindergartens. Currently, the disaster prevention and reduction education experimental program is being evaluated to assess its effectiveness and efficiency.

**【日本語要旨】**  
台湾は地理的に地震や台風の影響を強く受ける地域に位置し、近年の気候変動の影響で、風水害や土石流災害などの潜在的リスクがさらに高まっている。少子化が進む台湾では幼児教育と保育の質が強調される一方、子どもの安全の確保、さらに就学前段階から災害に関する知識習得と災害回避のスキル育成が重要な課題となっている。教育部は、2010年に絵本とデジタル防災教材の出版、2016・2017年度には全国で防災教育実験を24のモデル幼稚園で試行、また地方政府による防災学習モデル、教材、教案および教具の開発が進められている。  
本パネルでは政府が主導してきた幼稚園防災教育活動の成果を2016年度・2017年度の「幼稚園防災モデル園試行プロジェクト」を取り上げ考察する。

**【中文摘要】**  
台灣位於地震、颱風生成地區，近年氣候變遷，風災、水災、土石流災害潛勢愈發高，防災教育需求愈形殷切。少子化也是當代台灣社會的一個特色，學齡人口逐年減少，教育部正積極推動幼兒教育，並重視幼兒教育品質，另一方面，重視幼兒安全、安撫幼兒心理，並積極推動防災教育。2010年中央政府出版了幼兒園防災遊戲書或數位教材，2014-2017年進行了24所防災教育實驗；也有地方政府進行防災教育輔導或辦理幼兒園防災教育教案及教具的競賽、獎勵活動。  
政府主導的幼兒防災教育正面臨成效檢討。

**●はじめに**  
台湾は日本と同様に、環太平洋造山帯に位置し、火山・地震の多発国である。1999年9月21日に発生した大地震（通称921地震）は死者2,415人、51,711戸の全壊、53,768戸半壊の損害をもたらした。この地震をきっかけとして、2000年に「災害防法」を制定、9月21日を「防災の日（国家防災日）」に設定し、教育部（日本の文部科学省）は内政部（日本の内閣府）、消防署とともに防災・減災に向けて様々な取り組みを行ってきた。  
一方、2012年に幼託一元化政策が実施され、幼稚園と託児所は「幼稚園」に統合された。2～5歳の幼児の教育・保育は教育部を所轄庁とする体制が確立し、幼稚園業務を担当していた「国民教育局」は「国民と就学前教育署」に組織替えがなされ、2千余りの幼稚園教育主管から6千余りの幼稚園の教育・保育を主管することとなった。この5年間、幼託一元化によって本来託児所であった幼稚園の幼児教育と保育の管理や向上、新しい幼稚園教育と保育課程要綱の研修が、「国民と就学前教育署」の喫緊の課題であった。防災・減災教育の取り組みや実施については、情報・科学技術局（資訊及科技教育司）は担当している。防災教育は、学校防災ハンドブックの編纂と啓蒙によっても小、中、高校または大学での防災避難演習は義務化されている。2012年幼託一元化以前の幼稚園や託児所は防災・減災教育の対象ではなかった。幼託一元化後の幼稚園は対象となり、防災避難演習も実施されるようになった。  
少子化も台湾社会の深刻な課題となっている。合計特殊出生率は2010年0.895となり、その後は0.106（2011年）、0.127（2012年）と改善したものの、2016年は0.117であった。内閣府（内政部）や厚生労働省（衛生福利部社会及家庭署）、各地方自治体において、子育てサービスと支援施策の取り組みがなされている。  
革新的通信技術により国内外で起こった地震、津波、洪水、山火事などの災害は瞬時に生々しく報道され、人々は自分の生活環境の安全問題、子どもの安心・安全の生活環境に、今まで以上に関心を払うようになってきている。  
南瑩（2018）は台湾の防災・減災教育について次の3点特徴を指摘している。1. 国家主導で防災ハンドブックや環境安全点検票の基準がしっかり示され、統一的教育や対応が可能となっていること；2. 防災教育がIT技術を活用しながら展開していること；3. 気候変動教育などグローバルな展開が取り入れられていることである。本パネルでは2016・2017年度で行われた「幼稚園防災教育モデル試行プロジェクト」を取り上げ、幼稚園現場の防災にかかわる営みをたどり、上述の3点の特徴を中心に、幼児教育の観点から台湾の幼稚園の防災・減災教育活動を考察する。



**●2016年度「幼稚園防災教育モデル園試行プロジェクト」**  
2016年度は教育部からの要請により、各県市政府から1-3の所管公立幼稚園が推薦された。教育部の幼稚園防災教育推進諮問会議諮問会議では1地方1モデル園を前提として、園の所在地、潜在災害類型、級別、園の規模などの条件で10のモデル園が選定された。モデル園には最大24万円の防災推進経費を与えられ、教育部防災教育指導チームにより3回の実地指導が行われた。各モデル園は、防災器具の充実や保育者と子どもたちにおける防災能力の向上について報告書として成果をまとめている。  
**●2017年度「幼稚園防災教育モデル園プロジェクト」**  
前年度の実地経験に踏まえ、2017年度は新たな14園を選定して、防災教育モデル幼稚園を作り上げた。



| 序  | 縣市  | 幼兒童         | 總人數    | 特殊兒 | 地震 | 受災 | 人為 | 輻射 | 積分 |
|----|-----|-------------|--------|-----|----|----|----|----|----|
| 1  | 南投縣 | 南投市立幼兒園文山分班 | 60以下   | 0   | 中  | 中  | 低  | 無  | 7  |
| 2  | 桃園市 | 平鎮幼兒園平鎮分班   | 60以下   | 2   | 中  | 低  | 低  | 無  | 6  |
| 3  | 桃園市 | 楊梅幼兒園       | 61-150 | 5   | 中  | 低  | 低  | 無  | 6  |
| 4  | 高雄市 | 裕誠幼兒園       | 151以上  | 8   | 低  | 低  | 低  | 無  | 5  |
| 5  | 苗栗縣 | 通霄鎮立幼兒園     | 61-150 | 7   | 低  | 低  | 低  | 無  | 5  |
| 6  | 屏東縣 | 新埤鄉立幼兒園     | 61-150 | 2   | 低  | 低  | 低  | 無  | 5  |
| 7  | 基隆市 | 安心幼兒園       | 61-150 | 1   | 低  | 中  | 低  | 無  | 5  |
| 8  | 南投縣 | 集集鎮立幼兒園     | 61-150 | 1   | 中  | 低  | 低  | 無  | 5  |
| 9  | 桃園市 | 楊梅幼兒園       | 60以下   | 1   | 低  | 低  | 低  | 無  | 5  |
| 10 | 新竹市 | 市立幼兒園       | 151以上  | 20  | 低  | 低  | 低  | 無  | 4  |
| 11 | 嘉義縣 | 竹崎鄉立幼兒園     | 151以上  | 8   | 低  | 低  | 低  | 無  | 4  |
| 12 | 金門縣 | 金城幼兒園       | 151以上  | 6   | 低  | 低  | 低  | 無  | 4  |
| 13 | 臺南市 | 第一幼兒園       | 61-150 | 13  | 低  | 低  | 低  | 無  | 4  |
| 14 | 基隆市 | 安心幼兒園       | 61-150 | 1   | 低  | 低  | 低  | 無  | 4  |



**●考察**  
2016・2017年度において中央政府が各地で24の防災モデル幼稚園を整備すると同時に、専門家による防災教育指導チームの設置と定期的な入園指導、評価と再検査、成果報告書提出などの防災力整備の仕組みを立てた。全国総計6,323（うち4,205は私立園）の幼稚園の中、24の防災教育モデル園の存在は何を意味するのか。  
まずは、中央と地方政府の防災教育に関する責務が問われる。教育部は、今後、防災モデル園プロジェクトを断り切り、地方政府に教育主管機関として防災教育に努めさせる姿勢を示している。しかし、経費や防災・減災理念によって、地域間幼稚園の防災力または防災教育の実施はかなりの差がつくことが予想される。  
幼稚園の現場を見てみると、6千あまりの園はいずれも毎年最低2回の地震防災避難演習は行っている。しかし、教育部の防災モデル園プロジェクトの認知度はあまり高くない。24のモデル園はすべて公立施設である。全体の三分の二を占める私立幼稚園にとって、こうした専門家アドバイスのような防災整備の取り組みがどのように評価されるのか、興味深い課題である。幼託一元化による新しい教育と保育課程要綱の研修の実態をみると、すでに法令に従って実行している地震避難演習イコール防災教育という認識が一般化している。如何にして防災・減災を日常の教育・保育活動に取り込んでいくかが、モデル園整備の過程で明らかになった課題である。  
当プロジェクトに参加したモデル園の状況を見ると、3回の指導を終了したという保育者もいれば、専門家との対話により自園の状況や問題の把握、そして自分の災害対応は子どもの命にかかわることへの理解、さらにこれから日常の教育・保育の中で防災・減災活動を考えていくとする姿勢をみせる保育者もおり、かなりのバラツキがみられる。  
2018年早々、教育部は幼稚園から大学まで、また地理、気象学など各分野の専門家を招き、今後3年の新しいプロジェクトを始めている。それは「強靱な防災学園の建設とIT資源の活用（建構韌性防災校園與防災科技資源應用計畫）」である。IT技術や情報を取り入れ、防災・減災教育を通じて、災害に対応できる強靱な幼稚園の形成が次の課題である。

**●参考文献**  
南瑩（2018）：台湾の就学前教育における防災教育の実況、兵庫教育大学研究紀要、52巻、pp.49-54。  
翁麗芳（2017）：幼託一元化後の台湾における幼稚園防災教育の推進。掲載於CHILD RESEARCH NET 論文專欄日文版。2017年4月7日。  
<http://www.blog.crn.or.jp/report/02/234.html>